静岡赤十字病院における一次救命処置普及活動についての報告

静岡赤十字病院
救急看護認定看護師
名倉やよい

BLS・AED講習会の目標

一般目標:

三次救急病院の職員として、BLSを習得できる。

行動目標:

・蘇生開始の必要性を判断し、行動に移すことができる。
　評価・判断・行動がわかる。
・胸骨圧迫、人工呼吸を習得することができる。
　絶え間ない胸骨圧迫の重要性を理解し、実施できる。
　質の良い胸骨圧迫を理解し、実施できる。
・AEDを安全に操作できる。

BLS・AED講習会の方法

- 開催頻度：1～2ヶ月に1回
- 開催時間：19：00～20：30（90分）
- インストラクター：

  AHA-BLSインストラクター

  ICLS認定インストラクター

  アシスタントインストラクターを3回経験済
- アシスタントインストラクター：

  講習会修了後、3回まではアシスタントとして、インストラクターの指導下で知識・技術を学ぶ。

※救急部門の研修医はアシスタント参加の義務

BLS・AED講習会の内容

19:00～19:10（10分）：導入（胸骨圧迫の重要性など）
19:10～19:17（7分）：胸骨圧迫
19:17～19:22（5分）：周囲の安全確認・感染防御・意識の確認・
人や物を集める（WTP）
19:22～19:32（10分）：頭部後屈顎先挙上で気道確保・呼吸確認・
人工呼吸（ポケットマスク・フェイスシールド）・
脈拍の確認（WTP）
19:32～19:40（8分）：休憩
19:40～19:52（12分）：BVM（一人法・二人法・三人法）
19:52～20:07（15分）：CPR（一人法・二人法・三人法）（WTP）
20:07～20:22（15分）：CPR＋AED（WTP）
20:22～20:30（8分）：まとめ・片付け・アンケート記入

※WTP：watch then practice

受講生の職種・参加人数

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
医師	2	2	1					1							
初期研修医								11		1					
看護師(病棟)	9	9	6	8	6	6	4		6	5	10	10	10	2	5
看護師(外来)	2		4		3	4	3		1	2		1	4	2	
助手・事務職等							3					1			
放射線技師										2				その他12名	
検査技師									1	4		4	2		
合計	13	11	11	8	9	10	10	12	8	14	10	16	16	4	17
対象限定の場合					看護師長			研修医							

その他:PT・OT・ST・視能訓練士

その他、蘇生に関する講習会の受講状況

新人看護師対象のBLS・AED講習会、研修参加人数

2006年	2007年	2008年
28名	20名	23名

新人看護師は看護部ラダー研修で実習。毎年9月に実施。

院内小児・乳児BLS講習会：参加人数38名・・・今までに3回実施

ICLSコース・・・12名×6回実施（消防職員や他病院スタッフ含む）
2007年より、ガイドライン2005に変更し開始

院内BLS・AED講習会に医師会より参加・・・49名

評価（良い点）

- インストラクションがわかりやすい
  →受講生：インストラクター＝2～3：1で実施[1)]
  →WTPを導入している。[1)]
- 実習時間が妥当である
  →勤務終了後に実技中心の講習会であり学習意欲を維持し、手技を習得するには適当な長さである。[1)2)]
- 個々の手技の方法がわかりやすい
  →各々の手技をきちんと実習してから、全ての動作をつなげる方法で行っている。

1）加藤一朗：治療 87(7):2119-2123,2005
2）片桐ら：蘇生 25(3):214,2006

評価（悪い点）

- 勤務時間外の講習会である。

↓

- 参加希望者が少ない
  →BLSの重要性が職員に認識されていない。
- インストラクター希望者が少ない
  →教えることへの抵抗や精神的負担がある。[3)]

  →職場での評価に直結しない。

3）松井ら：蘇生 25(3):216,2006

今後の展望

- 講習会を今後も定期開催して、積極的にPRすることで院内への認知を高める。
- 関心の低い部署を対象とした講習会を行う[4)]。
- 小児・乳児BLS講習会やICLSコースなど、需要を考慮しながら他の講習会も行い、その中でBLSの重要性を再認識させる。
- 修了者に積極的に声掛けをし、アシスタント参加をしてもらうことで、BLSインストラクターの育成していく。
- BLS受講やインストラクター参加をポイント制にする[4)]。
- 幹部職員への受講を促す。
- 職種別に講習会を企画する。

4) 小山ら：蘇生 25(1):33-37,2006